



南伊豆のメダイ仕掛け例

竿は全長2.4m前後、青物用フリースロット

片テンピン=腕長40cm前後

クッションゴムII

1.5m

2mm

親子サルカン

1.5m

ハリス=10号

ハリス=13号

ハリス=13号

•Tackle Guide
クッションゴムの先端から親子サルカンを介して2本のハリスを出すのが基本スタイル。ただし、サバの回遊や潮悪でオマツリが頻発する条件下では、1本バリにしたほうが仮にオマツリしてもスムーズに解消できる。

▲ハチビキはメダイと肩を並べるおいしい魚



た尾ビレが生み出すパワーは強烈だ。タツクルをキーバーに乗せたまま、ギユンギユンと絞り込むような引きをドラクで適宜調節しながら巻き上げる。上がったってきたのは3キロ超

級のメダイ。自らタモ入れして無事に取り込み成功。船宿の標準仕掛けは図のように入リス10号4.5メートルと1.5メートルの振り分け式2本バリで、ハリスはヒラマサ13号。しかし、水野さんはハリス18号6メートルの2本バリで、ハリスはムツバリの20号という極太仕様。「ハリスは大きくても食いはまったく変わりませんよ」と豪語するように、この仕掛けでだれよりも多くのメダイを取り込んでいく。

▼この日は常連の水野さんが大活躍



釣りはオキアミのコマセ釣りで、支給される付けエサはサンマ。丸のままなので、自分で適当にカットする必要はある。まな板は船にあるが、包丁やナイフは持参とのこと。1投目から竿先を震わせるのは特大のゴマサバ。最近はどこもサバが大量に回遊している、浅場のイサキ狙いでもサバで釣りにならないことが多い。

●船宿information

南伊豆下田須崎港

稲荷丸

☎0558-22-5097 (詳細は巻末の情報欄参照)

- ▶料金=メダイ乗合一人1万4000円~ (付けエサ、コマセ、氷付き)、釣り場により変動
- ▶備考=予約乗合、5時集合。ほかメダイ、イサキへも



森一徳船長

幅で誘い上げていく。すると、10~20メートル上げたところで、サバを蹴散らすようにメダイが食いつき、竿先がギユンギユンと絞り込まれる。こんな調子で順調に釣果を重ねていくのだが、決して自分の釣りに没頭しているわけではない。右舷ミヨシがビギナーと知るや、自作の仕掛けをこっそり分け与え、釣り方を指導し、魚が掛かればタモ入れ、そしてすべてのエサ切りをかって出ると至れり尽くせりのサービス。しかも、決して偉ぶることなく、終始笑顔で対応するのだから、まさにベテランの鑑。並みの仲乗り以上の働きぶり、こんな人が毎日いてくれたら船長はさぞかし楽だろう。さて釣れ具合のほうは、潮が適度に流れたせ



▲神子元島周りのメダイは4~5キロ級の良型ぞろい



▲置き竿で電動リールの機能を使い小刻みに誘い上げてもいい

4月25日、東伊豆下田須崎港の稲荷丸へ。ターゲットはメダイだ。下田エリアはこの釣りのメッカで、周年の専門乗合も存在する。季節の釣り物を追う稲荷丸は専門というわけではないが、メダイやイサキが本格化する前の今はメダイ狙いで出る日が多い。集合は5時。東京からの3人グループが右舷に並び、左舷はミヨシに常連さん、大ドモに私が釣り座を構える。この常連さんは水野さんといって、以前どこかでお会いしたような気がすると思ったり、昨年9月の稲荷丸でこ

緒させてもらった方。このときも断トツの竿頭であった。大きなエサが決め手。ほどなくして出船し、森一徳船長の操船で沖へと向かう。メダイのポイントはいくつかあるが、古くから知られているのは利島沖だ。しかし、稲荷丸が得意とするのは神子元島周り。数では利島沖に劣るものの良型、大型がそろうのがその魅力だといえる。6時過ぎ、神子元島南側のポイントに到着。さっそく指示ダナ120メートルで釣り開始となる。このところ風雨に泣かされ

下田名物の。パワーファイター

神子元島周りのメダイ快釣!!

釣り方はオキアミのコマセ釣りで、支給される付けエサはサンマ。丸のままなので、自分で適当にカットする必要はある。まな板は船にあるが、包丁やナイフは持参とのこと。1投目から竿先を震わせるのは特大のゴマサバ。最近はどこもサバが大量に回遊している、浅場のイサキ狙いでもサバで釣りにならないことが多い。

サバもこのサイズになると、少しくらい大きめにカットしたサンマエサではとても太刀打ちできない。そこで、釣れたばかりのサバをさばいてエサにするのが常套手段。エサのサイズはその日の状況によるが、当日は半身を縦に割った四分の一サイズが効果的だった。元のサバが特大だから、四分の一でも羊羹くらいのボリュームがある。

3流し目に入った6時半、水野さんの竿がアタリをとらえた。側偏した魚体と発達し

ベテランは太仕掛けで勝負

これは水野さんの仕掛け。ムツバリ20号にハリス18号の頑丈一点張り仕様だ。ハリスもここまで太くなるとしっかりした締め込みが必要になるし、締め込んだつもりでも使っているうちに緩むこともある。このため、ほどけないよう端糸をギリギリでカットせず、2センチほど残すことで対処している。熱海の漁師に教えてもらった工夫だそう。

▲端糸を2センチほど残す